

附表一

官

歷

官

歴

## ○官歴

		族府 籍県	月生 日年	名 姓
		鹿児島県華族		
		宮崎藩	安政二年乙卯九月	
		旧姓名		
明治八年	七月七日			
十年	六月二十八日			
十三年	十一月十八日	法律学修業ノ為米国留学可致候事 米国ハルバード大学校ニ於テ法律学卒業 留学満期ニ付帰朝		
十四年	十二月六日	雇申付候事 但月俸百円給与候事 刑事局詰申付候事		
二月二日	本年前期代言人試験委員申付候事			
六月二十八日	民事局詰申付候事			
八月二日	本年後期代言人試験委員申付候事			
十月二十四日	任判事			
	年俸千二百円下賜候事			
	大阪控訴裁判所詰被仰付候事			
		司太同同同同	文部省	
		法政	司法省	
		省官		

外務省	内閣	同務省	外務省	内閣	賞勵局	外務省	同省	同省	同省	同省	同省	同省	同省
二十六年八月十七日	十二月二十八日	十一月十日	十月十日	三月三十日	十一月二十五日	十二月五日	十一月	十二月	七月	一月	二十三年	二十四年	二十五年
公使館領事館撤回ニ依リ帰朝	叙勳六等賜瑞寶章	賜一級俸	清國在勤ヲ命ス	布陸國皇帝陛下ヨリ贈与シタル王冠第二等勳章ヲ受領シ及佩用スルヲ允 許ス	格別勉勵ニ付金百五十円賞与ス	叙從五位	叙正六位	中級俸下賜	八日	十日	十四日	二十一日	二十四日
公使館領事館撤回ニ依リ帰朝	叙勳六等賜瑞寶章	賜一級俸	任公使館參事官	叙高等官三等	任公使館參事官	賜一級俸	任公使館一等書記官	廢官	八日	十七日	三十日	三月三日	十六日
外務省	内閣	同務省	外務省	内閣	賞勵局	外務省	同省	同省	二十七日	二十七日	十四日	二十六日	二十六日

外務省	内閣	同務省	外務省	内閣	賞勵局	外務省	同省	同省	同省	同省	同省	同省	同省
二十九年四月十日	三十日	三月三日	二十九年四月十日	二十九年七月八日	二十九年七月八日	二十九年六月二十七日	二十九年七月八日	二十九年六月二十七日	二十九年七月八日	二十九年六月二十七日	二十九年七月八日	二十九年六月二十七日	二十九年七月八日
任外務省翻訳局次長	任外務省翻訳局長	文官普通試験委員ヲ命ス	任外務省翻訳局長	叙奏任官三等	下級俸下賜	中級俸下賜	叙從六位	中級俸下賜	下級俸下賜	下級俸下賜	大審院詰被仰付候事	公信局勤務被仰付候事	歸京被仰付候事
公信局勤務被仰付候事	任外務省翻訳局次長	任外務省翻訳局長	任外務省翻訳局長	叙奏任官二等	叙奏任官二等	叙奏任官二等	叙奏任官二等	叙奏任官二等	叙奏任官二等	叙奏任官二等	任外務權少書記官	翻訳局次長心得被仰付候事	翻訳局次長心得被仰付候事
翻訳局次長心得被仰付候事	任外務省翻訳局長	任外務省翻訳局長	任外務省翻訳局長	任外務省翻訳局長	任外務省翻訳局長	任外務省翻訳局長	任外務省翻訳局長	任外務省翻訳局長	任外務省翻訳局長	任外務省翻訳局長	任外務省翻訳局長	任外務省翻訳局長	任外務省翻訳局長



官歷

五月十三日  
七月四日  
外務省所管事務政府委員被仰付  
和蘭國摶政皇太后陛下ヨリ贈与シタル「リツデル・クロイド・クロイス  
・イン・デ・フルデ・ヴァン・オランエ・ナツサイ」勳章ヲ受領シ及  
佩用スルヲ允許ス

外務省所管事務政府委員被仰付  
和蘭國攝政皇太后陛下ヨリ贈与シタル「リツデル・クロイド・クロイス  
・イン・アルデ・ヴァン・オランエ・ナツサイ」勳章ヲ受領シ及  
佩用スルヲ允許ス

臨時政務調査委員被仰付  
法典調査会委員被仰付  
條約実施準備委員被免

許ス  
支那皇帝陛下ヨリ賜与シタル玉冠第一等勳章ヲ受領シ及佩用スルラカ

九月十三日

敘高等官一等  
賜一級俸

米國華盛頓府駐劄被仰付  
布哇移民送還ニ闕スル擇

八月二十七日 葡萄牙國皇帝陛下ヨリ贈与シタル「グランク  
ルデソニリタール・デ・ノイ・セニオール受領ノ及属用スレヲ允許ス

九月十五日  
法典調查會委員手當金二百五十円下賜

九月十一日

卷之三

三月三日 壇地利・洪牙利・皇帝ル・ド・フランソワ

九月二十二日 準國皇帝陛下ヨリ贈  
領シ及佩用スルヲ允

十一月二十一日  
允許  
敘勳二等授旭日重光

十月二十三日  
法朗西共和国政府ヨナル・ナシヨナル・ド・ラ  
允許ス

一月二十三日  
米國駐劄被免露國駐劄被仰付  
瑞典諾威國駐劄公使兼勸被仰付

十二月九日 露国駐都被免

瑞典設屬國駕禁  
清國駐劄被仰付

七月三十日

十一月二十五日

二月二十七日

官歷

賞 賞 宮 同 同 同 同 同 同 同 同 賞 賞 同 同 賞  
內 熱 熱 內 內 內 內 內 內 內 熱 熱 熱 熱 熱

